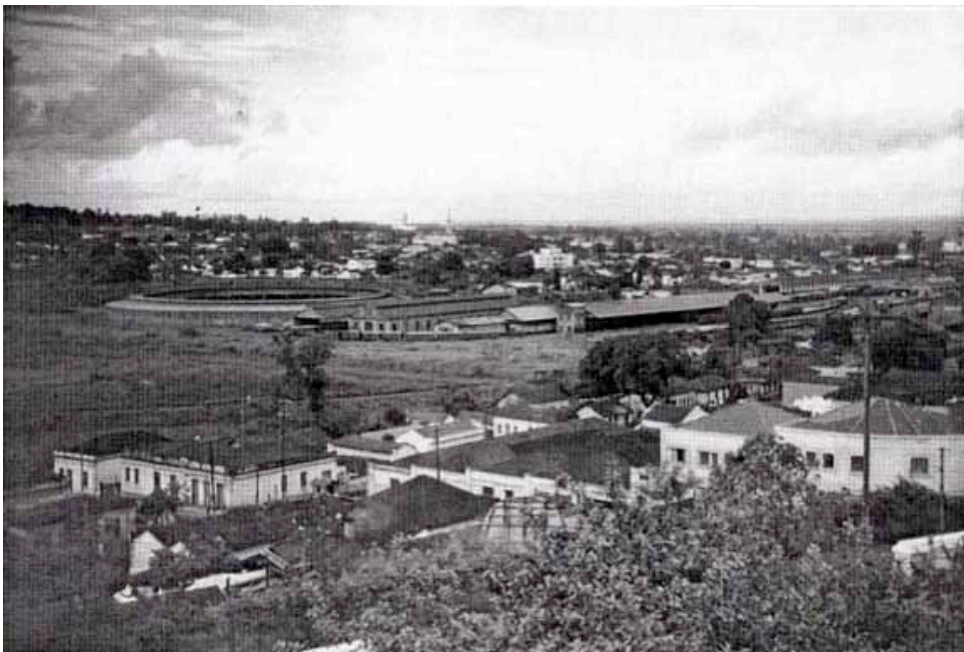


### 第三章 37) リベイロン・プレート郊外に在住する人々



リベイロン・プレート・モジアナ駅前とその広場 1900 年ころ



リベイロン市外のモンテイロ・グアタパラ路線入口

\*後藤一行、1912年5月、巖島丸、福岡県浮羽郡出身、郊外モンテ・アレグレに配耕、後年カウカエアに移り養鶏場経営。（「ブラジル日系紳士録」293ページ）

\*平田源蔵、1913年10月、若狭丸、福岡県三井郡出身、同船に滝沢仁三郎（グアタパラ配耕）、渡辺孝（福島県出身、東洋移民会社のミナス金鉱就労者18家族を引率して渡伯）。

リベイロン近郊バラコン耕地に配耕、現地労働者と諍い事件をおこしたクワリチンガ方面へ、更に転じてドアルチーナ、パウルー管内福寿植民地に落着く。

\*小田勘次郎、1914年5月、帝国丸、広島県芦名郡福相町出身、郊外に配耕後、パラナ州カンバラでコーヒー栽培、プ・ヴェンセスラウに再移転。(「ブラジル日系紳士録」660ページ)

\*松浦平吉、同きよ(妻)、1914年渡伯、静岡県出身、リベイロン・プレート市内で時計修繕、市内在住の草分け。後年子息は三島唯一長女アイコと結婚。(「移民40年史」)

\*吉岡藤平、1918年3月、若狭丸、熊本県八代郡泉村旧下岳出身、同市郊外ビラ・マリアナ耕地で義務農年終了後、綿作数年のあと、プロミッソン駅ゴンザガ植民地に農地を求め入植する。(「熊本県人発展史」750ページ)

\*上野政喜、1927年7月、若狭丸、熊本県鹿本郡吉松村平井出身、リベイロン・プレート市郊外のサブカイ耕地で義務農年の2ヶ年遂行後、リンス駅上塚第二植民地アリアンサ区にコーヒー栽培請負6ヶ年契約をする。当時コーヒー植付制限の法令が出された時で余儀なく綿、米作などを植付ける。(「熊本県人発展史」)

\*古河一、1926年1月、阿波丸、鹿児島県始良郡隼人町出身、モジアナ線サランジーに入耕、後グアラ、ミゲロポリス、ジャボチカバルを経てリベイロン・プレート市内にガソリン・ポスト開業。(「ブラジル日系紳士録」732ページ)

\*山村敏治、1929年1月、サントス丸、広島県広島市牛田南町、モンテ・アウト耕地に配耕就労、1949年リベイロン・プレート市に移転、ガソリン・ポスト及びトラクター代理店開業。(「ブラジル日系紳士録」733ページ)

\*名久井定吉、1929年1月、サントス丸、北海道空知郡山部村出身、姉の夫菊池三平氏の家族構成員、配耕先はリベイロン・プレート支線マカウーバ耕地で義務農年を終了、耕主の特別採用で住宅地庭園の庭師となった。3ヶ年勤務後、同耕主所有のモーロ・デ・ビクトリア耕地で就労すること3ヶ年。モジアナ線で働くこと7ヶ年後、ノロエステ線へ移転、そして落着いたのがパラナ州トレスバラス移住地パルミットル区。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」580ページ)

\*小見森衛、1929年2月、若狭丸、茨城県鹿島郡白鳥村(のち大洋村、現銚田市)郊外入耕、父寛、母チヨ、7歳で両親に伴って渡伯。移転して1933年アサイ郡トレスバラス移住地フィゲイラ区に入植する。(「トレスバラス移住地開拓20周年史」183ページ)

\*岡本重雄、1929年2月、マニラ丸、愛知県刈谷市出身、郊外入耕後、リンス移転雑作に従事、1944年パカエンブーに再移転。(「ブラジル日系紳士録」601ページ)

\*熊谷均、1929年3月、モンテビデオ丸、福岡県浮羽郡浮羽町出身、モジアナ線カニンデに配耕、後ミゲロポリスに移転、1955年リベイロン・プレート市に移転、アルマゼン・サン・パウロ食糧品店を開業。(「ブラジル日系紳士録」731ページ)

\*星野竹男、1929年7月、博多丸、三重県津市阿漕町出身、郊外に入耕、後バストス移住地に移転綿作従事、1947年ルッセリア市再移転。(「ブラジル日系紳士録」577ページ)

\*森脇常雄、1929年7月、博多丸、広島県双三郡吉舎町出身、リベイロン・プレート駅付近サンタ・アデーデ耕地で1農年半後、モジー・ダスー・クルゼース駅サレゾポリス町サン・ジョゼ耕地に移転して馬鈴薯栽培の歩合作を始め他。（「ブラジル広島県人発展史」）

\*坂本勲、1929年11月、神奈川丸、山口県豊浦郡豊浦町出身、モジアナ線イガラッパーバに入耕就労、後ジャルジノポリスに移転、1960年リ・プレート郊外で雑作農を業とする。米作の機械化農業の先駆者。（同上 732 ページ）

\*尾村幸穂、1930年5月、河内丸、上益城郡乙女村字中山出身、サランジ駅シャッペ耕地で就労。リベイロン・プレート市付近に借地して綿、米作に従事する。（「熊本県人発展史」 744 ページ）

\*矢野要、1930年6月、博多丸、福岡県京都郡伊良原村出身、家族で渡伯。クラブニョス配耕。契約満期後リファイナへ移転。山下雪雄夫人の厳父。（「モジアナの土に生きる」より）

\*石原貞伊、1932年7月、モンテビデオ丸、福島県北会津郡若松市出身、ノーバ・ヨーロッパ入耕就労、東京水道橋講道館門下生であり、市内で柔道場を開設、1940年アサイ郡トレスバラス移住地に再移転、営農の傍ら柔道の普及に努める。（「ブラジル日系紳士録」 894 ページ）

\*水谷稔、1932年11月、リオ・デ・ジャネイロ丸、愛知県名古屋千種区出身、イツペラーバに入耕、後リモン耕地に移転。1926年渡伯当時6歳であった山口県出身、森田満貴子さんと1944年に結婚。1957年リベイロン・プレート市に移転、市役所市場で反物、小間物、既製品の販売を業とする。（「ブラジル日系紳士録」 731 ページ）

\*林田進、1933年5月、マニラ丸、長崎県出身、両親と7歳時に渡伯、カフェランジアに配耕、以後綿作りなどを経て聖市に移転。1959年リベイロン・プレート市営メルカードで長い間魚屋を営む。後年日本食レストラン開店。

\*中尾安治、1933年8月、アラビア丸、熊本県八代郡有佐村出身、両親（宇治郎、スズユ）と13歳時に渡伯。リファイナに配耕、移転を重ねジャルジノポリスで農場を購入。1958年農場を売却してリベイロン市へ移転。長男ジェツーリオ氏は法律、会計事務所を経営、グアタバラ文協もお世話になっている。次女マリア妙子さんと結婚した堀田謙一氏は2007年よりジャタックグアタバラセンターに勤務中。リベイロン市内在住の山下雪雄氏の母梅乃さんとは親戚関係。

\*山田勝視、1933年8月、アラビア丸、熊本県八代郡都築村出身、両親（才八、梅野）リンコン駅ピント耕地に就労、後転じてバレットスで野菜作り。1968年にリベイロン・プレートに移転。野菜を作りながらフェイラで販売する。（「モジアナの土に生きる」より）

\*刑部武（オサカベ）、同栄子（妻）長女妙子、長男安徳、1934年3月リオ・デ・ジャネイロ丸、静岡県沼津市出身、ノロエステ線ノーヴァ・イタリア耕地1農年就労後、サン・パウロ植民地を経て1937年リベイロン・プレート市へ転じて日本語学校を開き、以後18年間継続する。

\*前田由松、1933年8月、サントス丸、北海道北見国網走郡出身、郊外に入耕、1年後モジ郊外に移転蔬菜、果樹等を栽培。（「ブラジル日系紳士録」374ページ）

\*江田勇、妻みつの、1934年5月、茨城県結城郡千代川村大園木出身、リベイロン・プレート市郊外に配耕される。（つくばね第13号3ページ）

\*市田理代吉、1934年9月、アフリカ丸、京都市区上区西陣大宮出身、郊外に配耕コーヒー園に就労、転じてカンポ・リンポに移り養鶏、花卉経営。（「ブラジル日系紳士録」335ページ）

\*石津剛、静岡県浜松市篠原町出身、リベイロン市郊外に入耕転じて、ブラガンサ・パウリスタに移転農業に携わる。（「ブラジル日系紳士録」328ページ）

\*黒石光男、1928年6月10日、ノロエステ線リンス市生、リ・プレート総合大学薬学科卒、1952年リベイロン・プレート市で「サ・カタリーナ薬局」を開業。また同年に加藤三善（ミヨシ）さん次女エウリカさんと結婚。（「ブラジル日系紳士録」730ページ）

\*下小牧忠、1936年2月8日、ミナス州ウベルランジア市生、光男長男、1954年リベイロン・プレート高等商業卒、1956年コチア産業組合に就職、63年9月リベイロン市コチア倉庫主任。（「ブラジル日系紳士録」729ページ）